東海・北陸

富山県	天野光正さん		囲碁	28
	塩苅洋子さん		太極拳	29
福井県	髙橋研一さん		ウォークラリー	30
	内倉輝子さん		囲碁	31
岐阜県	神谷正敏さん		剣道	32
静岡県	佐々木芳博さん		マラソン	33
	田中美子さん		ウォークラリー	34
愛知県	髙木　順さん		テニス	35
三重県	佐藤慶男さん		ソフトバレーボール	36
	北川貴志さん		サッカー	37
静岡市	杉山和子さん		俳句	38

囲碁　「はなみずき」チーム

天野光正（あまのみつまさ）さん　94歳　●参加歴：7回目

病を克服し、家族や仲間とともに臨んだ7回目の大会

富山県でのねんりんピック初開催を知って、ぜひとも参加したいと思いました。

実は、第2回のおおいた大会に参加してから、ふくい大会・ふくおか大会・みやぎ大会などの代表になって合計7回参加しています。

ただ、大会に参加しながらもいろんな病気、結腸がん、肺がん、3年前には脳梗塞を発症して右半身にマヒが残っており、左目は光が見える程度の身体障がい者になっております。しかし、病気を克服し続ける姿に、担当医の先生から「不死身」とほめられました。高齢で障がいがある体でも、目標を持って前向きに進んでいきたいと常々思っています。体力の衰えは感じますが、精神力ではね返してきたつもりです。

11月3日の開催日に標準をあて、テレビの囲碁番組で勉強し、週1回は碁会所でいろんな人たちと対局をして集中力を高めていきました。

妻がケガで付き添いができなかったので、娘と孫たちに付き添ってもらい、今回も最高齢者賞と、3勝1敗の成績だったので優秀賞のメダルをいただきました。

全精力を使い果たし、大会後しばらくは碁盤も碁石も見るのがイヤになるくらいの戦いをしたので本望です。

対局中の天野さん。

信頼できるチームメンバーと。（右端）

会場まで付き添ってくれたご家族。

太極拳 「チーム・きらり」

塩苅洋子（しおかりようこ）さん　68歳　●参加歴：3回目

夫婦別チームに所属するも、切磋琢磨し優勝！

「最終得点 9.23」と審判長が点数をコールした瞬間、感動で思わず涙が出そうになるのを必死にこらえました。私たちの演武は 45 番目、まだ 14 チームが残っていましたが、高得点に満足していました。最後のチームの演武が終わり、私達の優勝が決まりました。同じく富山県代表の「チーム・アルモニー」も第 3 位という好成績に皆飛び上がって喜びを爆発させました。私達のチームは 2014 年秋に結成し、まず 2016 年に行われたながさき大会で 7 位入賞。今回、地元開催というプレッシャーの中、コーチや会員の皆様の指導のもと、練習を積み重ねてきました。しかし、動きがなかなかそろわず、曲を変更し、フォーメーションの見直しや、各々の動きの調整を図りながら練習に励みました。

「チーム・きらり」を結成してから半年後、「チーム・アルモニー」の監督兼選手には夫が選考され、夫婦別々のチームで出場することになりました。そこで練習会場を一緒にし、お互いの練習状況を見ながら切磋琢磨したことが成果につながったと確信しています。

また、2 チーム合同での合宿や、2017 年と 2018 年の 2 回、上市の大岩山日石寺で滝行を体験し、大会の成功と優勝祈願をして楽しい思い出作りもできました。そしてまた、夫婦でこの大会に出場できたということで、種目別開始式で選手宣誓という大役を仰せつかり、ドキドキしながら当日の朝を迎えました。2 人とも間違うことなくスムーズに言えたことにほっとしています。宣誓で「共に一生懸命練習した仲間を信じ、最高の思い出として記憶に残し・・・」と言ったとおりの現実になったことに大きな幸せを感じています。

総合開会式は好天に恵まれ、立山連峰もはっきり見える青空のもと、他県からの参加者と言葉を交わし楽しく行進することができました。また、我々の太極拳の仲間がアトラクションに参加し、のびのびと演武する様子を観客席から見て感激！！ これまでの練習日には台風や雨のため、まともに練習ができなくて苦労されていたので、本番は晴天の下で演武ができ本当に良かったと思います。

大会開催に向けて様々な準備をしてくださった県・市の関係者の皆様、並びに太極拳連盟の会員一人ひとりの皆様に感謝するとともに、練習や大会で得た体験を広くお伝えしていきたいと思います。

富山県代表の２チーム。（後列左から５人目）

ウォークラリー　「坂井市レク協 スーパーウォーカーズ」（選手代表）

髙橋研一（たかはしけんいち）さん　68歳　●参加歴：2回目

やったぞ、優勝！　アテンダーの心配りに感謝

ウォークラリー競技は11月4日に立山町で開催され、福井県からは坂井市レクリエーション協会員5名で「スーパーウォーカーズ」というチームを編成し参加しました。過去に市民向けのウォークラリーのコース設定や運営に携わった気心の知れたメンバーで、競技を熟知した健脚ばかり（？）です。「絶対に優勝するぞ！」を目標に掲げ、エントリーしました。今大会には、全国各地より選抜された44チームのエントリーがありました。

立山町は霊峰立山に抱かれた自然豊かで風光明媚な観光の町で、ウォークラリーコースはグリーンパーク吉峰の丘陵地に設定されたものでした。交流会館前での開始式では舟橋貴之大会長（町長）の歓迎の言葉や「立山権現太鼓」の力強い演奏があり、「競技頑張るぞ！」という意欲が鼓舞されました。

各チームには中学生が1名ずつアテンダー（世話係）として付き、スタートではスタッフの「頑張れ」の声援、スタート時刻のカウントダウンもあり、意識高揚の中でのスタートでした。コースは自然を満喫できるように設定され、アップダウンが大変激しく、特にコース中間での急斜面登坂は80歳以上の参加者には少々厳しいコースではなかったかと思います。でも、アテンダーの中学生は遅れがちなメンバーに積極的に付き添ってくださり、優しさとおもてなしに感謝しています。福井県チームはそれぞれの力量を発揮し一致団結して、チェックポイントの課題やゲームも大きなミスもなくこなし、所要時間2時間ほどでゴールしました。

目標は優勝でしたが「5～6位ぐらいに入れば」との思いで、閉会式の成績発表に臨みました。しかし、いつまでたっても呼ばれず半分諦めかけていたところ、最後に「優勝　福井県チーム」と呼ばれ、年甲斐もなく飛び上がって喜び、握手やハイタッチを交わしました。大会長より表彰状やトロフィーをいただき、一緒に記念撮影をした時は、目標通り優勝できた安堵感と感激で一杯でした。さらにチームメンバーが高齢者表彰も受け、二重の喜びとなりました。

大会に参加して、たくさんの他県の人と交流ができたことを嬉しく思うとともに、お世話いただいたアテンダーや地元のスタッフの皆様に感謝申し上げます。今回、立山観光はできませんでしたが、もう一度ゆっくりと訪ねてみたいと思っています。

和やかな表情を見せる競技中の髙橋さん。

囲碁 「越前烏鷺会」

うちくらてるこ
内倉輝子さん 68歳 ● 参加歴：4回目

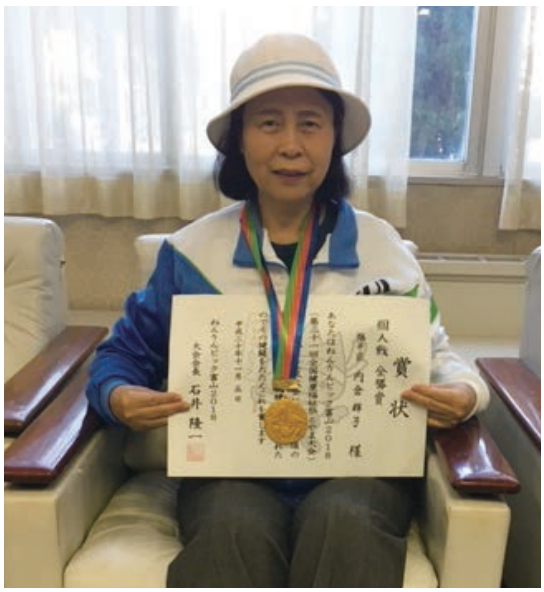
怪我の後遺症を乗り越え、全勝で金メダルを獲得

私が囲碁を覚えたのは35歳です。

1984年12月、囲碁会館が福井市内にでき、そこで10年間勤務しました。当時は、白・黒で何が楽しいのか……と横目で見ながら。そして35歳の時に「3週間で碁が打てます」のキャッチフレーズで女性を募集。その期間、無料にも関わらず応募者は3人。私もサクラとして習う事になり、講師はオーナーで、初日は大阪府の3級の人と2人でした。

3級の人は囲碁用語を使って打っていましたが、私は講師から「早く星目（九子）置いて打ちなさい」と言われても全くわからず……。悔しくもありその日に碁盤を購入。書店で置き碁の定石、九子から三子迄の置き碁の打ち方の本を買い、碁盤に並べて勉強しました。

ねんりんピックは熊本・栃木・長崎での大会に続き4回目の参加です。スイス方式で勝った者同士で対戦相手が決まり、4回勝てば全勝・金メダル。熊本大会で初参加し、金メダルを取る事ができました。栃木・長崎大会は決勝戦で負けました。



表彰状を手に穏やかな笑顔を見せる内倉さん。

富山の宿は、80歳の話し好きな他県の人を含めて5人部屋。8回出場で高齢者表彰されるまでは頑張るとの事。5人で碁盤を囲み、楽しい交流ができました。

朝は、同室の人とはあたりませんようにと皆が願いつつ会場へ。結果、決勝戦の相手は埼玉県の、息子さんがプロ棋士という私より若い人との対戦でした。埼玉県の囲碁ライターの方から「埼玉県は男女共に全勝優勝を狙っていますから」とプレッシャーをかけられました。握って私の白番。中盤でお互いの石が切断し攻め合い。私の読みが勝って相手が投了。全勝・金メダル。団体戦は4位と今までの参加で一番の好成績でした。

私は4月の転落事故で打撲、骨折とあちこち怪我をし、頭を打っていたために3週間はネット碁も打てませんでした。今の碁力に戻すために4カ月はかかりました。頭痛等後遺症のある中で金メダルを取れた嬉しさに熱いものがこみあげてきました。

4年前から、近所の学生、大人の合同囲碁教室で教えているボランティアの方を週2回、私も手伝っています。32年間多くの人に打ってもらったり、教えてもらったりしました。私も少しでも貢献していきたいと思います。ルールを覚えるまでは大変ですが、囲碁を始めてみませんか？　囲碁って本当に楽しいですヨ。

剣道　「岐阜県選抜」チーム（監督）

神谷正敏（かみやまさとし）さん　70歳　● 参加歴：４回目

生涯剣道を伝え、ぎふ大会の成功・優勝を誓う

ねんりんピック富山大会に、剣道の種目で参加しました。今回で選手・監督含め４回目の出場となりました。

剣道交流大会の開始式では、越中いさみ太鼓演奏ではじまり秋田県から参加された93歳の今選手が最高齢選手として特別表彰されました。今選手は大将として出場され、「小手」を一本先取した時は、歓声が沸いたほどでした。70歳を迎えた私ですが、この試合を見て「私もこの年齢まで続けられるであろうか。いや頑張らなくては」という思いを一層強くしました。

今回の出場にあたり、ねんりん層のさらなる強化を目的に、毎月第１日曜に関市の体育館で、合同練習を行ってきました。毎回25名程の参加者があり、稽古で汗を流し、終わりにはお互いに「稽古をつけていただき、ありがとうございました」と声をかけ合うなど、親睦を深めるとともに技を磨いてきました。日頃、他の地区の剣道仲間と稽古する機会があまり多くありませんが、「ねんりんピックに出場したい」という共通の目的がある仲間と稽古ができることに、私のみならず皆さんも喜んでいます。

また、ねんりんピックに出場した選手を対象とした年１回の宿泊を兼ねたOBの稽古会にも参加し、より多くの人と関わること、より剣道の技を磨くことなど、新たな目標が見いだせたことは確かです。

現在、県立高校で剣道の指導もしています。生徒が試合に勝つことも大事ですが、剣道を長く続けてほしいという気持ちで、基本を中心に指導するというのが私の指導方針です。自分が培ってきた技を若い皆さんに伝え、その技を生徒がうまくできたときは、うれしさがこみあげてきます。生徒の皆さんには、部活動としての一時的な剣道の修行ではなく、生涯を通じて剣道の修行を行う、いわゆる「生涯剣道」を目指して頑張ってほしいと願っております。

2020年には岐阜県でねんりんピックが開催されます。「ねんりんピック岐阜2020を成功させよう」「必ず優勝を」を合言葉に、ぎふ大会に少しでもお役に立ちたいと考えております。

剣道会場にて。（左端）

ねんりんピック出場に向けての強化練習。

マラソン　5km「静岡県」チーム

佐々木芳博（ささきよしひろ）さん　71歳　●参加歴：1回目

入場行進の感動を胸に、仲間と1位・2位の快挙！

2018年11月3日に富山県総合運動公園陸上競技場で行われた開会式の入場行進に参加した際、私は生まれて初めて、あのような大々的な入場行進において、身が奮い立つような気持ちになりました。その時、全国からの代表が競い合う高いレベルの競技になるが、絶対に入賞するぞと心に秘めました。

私は20代の半ばから地域の駅伝競走などに参加し、そこそこの成績を収めてまいりました。しかし50代過ぎてから座骨神経痛を患い、しばらくの間思うような走りができず、ジョギングだけに専念していましたが、座骨神経痛も徐々に和らいできたので、スピードを加えた練習を再開していました。そして毎年シニア向けの静岡県すこやか長寿祭スポーツ・文化交流大会すこやかマラソンが開催されていることを知り、昨年エントリーしました。結果は何とか1位にこぎ着けることができましたが、決して楽なレースではありませんでした。その後、長寿財団から代表選出の通知があり、正直言って全国レベルの大会で戦えるのかなと不安な気持ちがありました。

ねんりんピックへ向けての長寿財団での結団式、それから開会式前夜の金沢のホテルでの出陣式を終えた時には、静岡県と自分のために頑張らなければと、一層入賞への思いが強くなりました。前にも述べましたが、入場行進でのあの雰囲気と感動・感激の思いは、マラソン大会当日まで持ち込むことができ、いよいよ5kmスタート直前、同じく静岡県代表で参加した仲間と、お互いに無言の相づちを打ちスタートを切りました。前半を折り返したところで、県の仲間も折り返し手前で、私に手を振り位置を確認し合いながら、お互いに切磋琢磨のレースを展開し続け、そして見事仲間と共に1位、2位の成績を収めることができました。これも一重に県スタッフの方々並びに仲間の応援があったからこその快挙だと感謝しております。尚、滑川市で企画していただいたミニ観光ツアーは、富山湾クルージングを中心としたもので、海から見た立山連峰は圧巻そのものでした。ツアーを推進した関係者の方々そしてマラソンを沿道で応援してくださった市民の皆さん方には心より感謝しています。

優勝を心に決めた入場行進。

533のゼッケンをつけてスタート！

ウォークラリー　「富士山熟女」チーム連（選手代表）

田中美子（たなかよしこ）さん　64歳　● 参加歴：２回目

別のスポーツ出身の５人がそれぞれ強みを発揮！

秋晴れの11月、盛大かつ感動的な総合開会式の後、ウォークラリーの開催地である立山町に向かいました。立山連峰の“お膝元”立山町は、陽に照らされた紅葉が、素晴らしい色彩を放って私達を迎えてくれました。

立山町でのウォークラリーの開会式は、ユーモアたっぷりの町長さんの挨拶をはじめ、郷土色豊かな芸能や子供達の歌や踊りの歓迎に次第に会場は盛り上がり、さらに驚いたことは、しずおか健康長寿財団の佐古伊康理事長さんや職員の方々のまさかの応援訪問でした。激励の言葉や手作りの横断幕に一同大感激すると共に、正直少なからずのプレッシャーを感じてしまったのも事実でした。でもそこは富士山熟女チーム！ 皆さんに背中を押され出発です。競技は会場であるグリーンパーク吉峰の施設内にある展示品の観察をしたり、山中の草花の名前を当てたり、ゲームを楽しんだりと、盛りだくさんの内容。またコースは階段や坂道にどのチームも四苦八苦。少し厳しかったのではとの声もあがりました。

私達５人は、３年前のやまぐち大会でそれぞれ別のスポーツを通じて結成された仲間です。ウォークラリーという色々な分野の知識や体力を必要とされる競技ですが、５人の得手不得手な部分を活かし助け合うことで勝ち取った今回の準優勝だったと思います。競技終了後は、各県の方々と互いに健闘を称え合い、和やかに交流することができました。その夜は旅館の素晴らしい温泉とご馳走に美酒を添えて祝杯を挙げたのはいうまでもありません。

翌日、富山観光を楽しみ、３泊４日のねんりんピックを終えました。ウォークラリーだけでなく、私達シニアがもっともっと元気いっぱい多方面で活躍できるよう、これからも頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

女性５人のチーム。結成は３年前。（右から２人目）

チームワークで目指せ、上位入賞！（右端）

テニス　「スマイル、アイチ」チーム

髙木（たかぎ）　順（じゅん）さん　　71歳　　●参加歴：２回目

愛知県代表テニスチーム、３度目の優勝！

富山県は、以前から訪れたいと思っていた場所でした。理由は、県庁所在地の間近で3千メートル級の山から水深千メートルを超す湾に急激に落ち込む風景が見られること。さらに、中央から離れていながら、数社のトップ企業を育んだ地域であるからです。

11月2日、名古屋駅前をバスで出発。バスの旅は休憩も十分とっていただき、快適でした。この日の宿泊地は氷見市のホテル。その夜の夕食・激励会の挨拶で、わがチームは過去に優勝を経験したメンバーが3名（内2名は参加した大会の結果がすべて優勝）おり、今回も優勝しますと宣言しました。次の日の総合開会式では、よく練習をされたであろう歓迎アトラクションに感激し、また合同開会式では、「おわら風の盆」も身近で見させていただきました。この日は早朝からの行動日でしたが、くつろぐことができました。

11月4日は予選リーグ当日、会場は岩瀬スポーツ公園テニスコート。優勝するためには、ここを1位通過することが必須です。予選は、1ブロック4チームのリーグ戦で、18ブロックの規模。私は70歳男子のダブルスで参加していましたので、常に先陣を切り、この日は全勝で終えることができました。途中、時雨に見舞われて中断もありましたが、チームとしても1位通過を果たすことができました。

明くる5日はいよいよ決勝トーナメント。予めドローが発表されていましたので、1回戦の相手は名古屋市チームと分かっていました。同じ地域ということもあり顔見知りも多く、接戦となることは覚悟していました。チーム内ではここを勝ち抜けば優勝が見えてくると、励ましあっていました。いざ対戦が始まると先鋒の私たちが敗戦。しかし、60歳女子ダブルスが健闘、続く60歳男子ダブルスの快勝を引き出してくれました。2回戦では3ペアともスコア4－0、相手チームからは「血も涙もないな」と言われてしまいました。その後は順調に勝ち進み、念願の栄冠を手にしましたが、内心は、激励会の挨拶が大言壮語とならずに済み、ほっとしています。勝因を振り返りますと、天候に恵まれ短縮ゲームとならず実力が発揮できたことと、チームがいろいろな面でまとまっていたことに尽きると思います。最後に、運営に関わっていただいたすべての方々に感謝申し上げるとともに、今後の大会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

試合終了後に笑顔を見せる選手たち。（前列右から２人目）

ソフトバレーボール　「四日市クラブ」（監督兼選手）

佐藤慶男（さとうよしお）さん　70歳　● 参加歴：６回目

ねんりんピックを励みに目指せ、生涯現役！

地域の交流スポーツ教室からソフトバレーボールをスタートし、生涯スポーツとして汗を流して楽しむことを目的に集まった仲間は「試合に勝ちたい」「市や県の大会で優勝したい」と次第に大きな野望を持つようになりました。しかしその野望もむなしく、何回チャレンジしても県の壁は厚く高いものでした。どうしたら勝てるのか。皆がやらない、できないことを考えないと点をとれない。基本的には、3回で返球、それを2回のツー攻撃で左右、後方からのトスで返球、強弱の攻撃、というのを練習や試合を通して繰り返し、繰り返し実践してきました。その結果、少しずつ県の上位に近づき、時々優勝することができるようになりました。ねんりんピックを知ったのはその頃です。60歳以上が5名で三重県の代表になった時は夢のようでした。

初参加の熊本での大会から、高知、山口、長崎、秋田、富山とたくさんのソフトバレーボール仲間が県内外でできました。時には共に食事やお酒を楽しみ、年間を通して楽しい試合、交流をさせてもらっています。今は仲間も増え60歳、70歳で2チーム編成が可能となり、和気あいあいとレギュラーを目指し日々競争しています。今できるから先がある、今を大事にして生涯スポーツを楽しむ、ねんりんピック参加は私達の大事な目標です。ソフトバレーボールをはじめてから25年、30歳から80歳の25名で日々練習、試合に励んでいます。今後もねんりんピックにチャレンジしていきます。今回の富山黒部交流大会の食事やお酒、紅葉全てに満足し、さらには、大会関係者皆様のおもてなし、ありがとうございました。最後に、三重県選手団役員の皆様には大変お世話になりました。四日市クラブもさらに交流を深め生涯スポーツを楽しんでいきます。お疲れ様でした。

富山のちびっこ応援団と選手たち。（後列右から2番目）

ブロック準優勝、おめでとう！

サッカー　「四日市フットボールクラブ」（監督兼選手）

北川貴志（きたがわたかし）さん　67歳　●参加歴：3回目

サッカーを楽しみ、文化に触れ、最高の思い出に

四日市フットボールクラブは、今年創立40周年を迎えるシニアサッカークラブで、40歳代から80歳代まで約100名のメンバーが、生涯現役を目指して練習し、県内外での各種大会へ参加するなど幅広く活動しています。

今回の「ねんりんピック富山2018」には60歳代のメンバー16名で2年ぶりに参加させていただきました。

11月3日の開会式では、総勢1万人を超える全国からの選手団の入場行進と、富山の方々の素晴らしいアトラクションにチーム全員が感動しました。開会式後のサッカー、テニス、ボウリング、ソフトボール競技の合同開始式では、高齢参加者の特別表彰で90歳のサッカー選手が登壇され、その軽やかな身のこなしに我々もまだまだ頑張らねばと、勇気をもらいました。その後のアトラクションでは「おわら風の盆」の哀調ある唄と優雅な踊りが披露され、特にしなやかな手の動きに魅了されました。11月3日、4日の宿泊先は偶然にもおわら風の盆が開催される富山市八尾町の町中の旅館で、周辺の落ちついた風情ある街並みを散策し、ぜひ9月初旬の開催時に訪れてみたいと思いました。

11月4日、5日に富山南総合公園で行われたサッカー競技は、4チームずつのブロックに分かれリーグ戦が行われました。対戦チームは茨城県代表、広島県代表、熊本市代表と強豪ぞろいで厳しい試合が続きましたが、幸いにも3戦全勝でブロック優勝ができました。

試合会場のグラウンドは天然芝が良く整備され、会場の運営も審判をはじめスタッフの方の配慮が行き届いていて、気持ちよくサッカーを楽しめました。また、昼食会場で地元の方々から暖かい鍋料理をふるまっていただいた際には、楽しく会話ができ交流を深めることができました。

「ねんりんピック富山2018」での3日間はサッカーを存分に楽しみ、他チームのメンバー、地元の方と交流でき、地域の文化にもふれた素晴らしい経験になりました。本当に大会関係者の皆様には深く感謝します。

黄色が鮮やかな四日市FCチーム。（後列右から2人目）

優勝を果たし笑顔。賞状を持つ北川さん。

俳句

杉山和子（すぎやまかずこ）さん　80歳　●参加歴：1回目

富山の恵みを堪能し、吟行地は黒部へ

80歳にしてねんりんピック富山の全国大会に参加しないかと声をかけていただき、わが娘の後押しもあって、また姑と夫の30年近い介護も終り、参加することを決めた。静岡市からは100名余りの参加で、私は俳句部門にて1名の参加である。事務局の方々の緻密な計画にもとづき数多な関係書類、冊子等をいただき、結団式にも出席し、富山へと思いを馳せた。

竹千代君像を後に静岡駅から富山行きの電車にて出発した。乗り換えの激しい旅ではあるがこれも高齢者の試練かとも思う。「健康と福祉の祭典」とは、ある意味強行軍にも耐えることなのかと文系の選手たちは感じていたと思う。スポーツ系の選手は体力があるから大丈夫ではないかと、すこし侘しい思いが頭をよぎる。だが富山で降車すると大勢の方々が大歓声にて静岡一行を迎え入れてくれ、新幹線の長旅も癒され心温まる思い。また、私が出迎え人とハイタッチした姿が夕方6時のニュースに映し出され、氷見旅館の部屋仲間とテレビを見たのは記念の一つであった。

静岡一行は海の神域とも言われる氷見温泉卿を宿とし、懇親会が開かれ、カワハギ鍋や鰤刺身に舌鼓を打ちながら楽しく会話ができ、お互いのチームの健闘を祈っていたことが印象的だった。翌日のねんりんピック総合開会式に向けての挨拶に盛り上がり、盛大のうちに宴は終了であった。

快晴に恵まれ総合開会式、皆汗を流しての大会参加行進となった。美しい立山連峰を眺めつつ9列をなしての行進である。そこでわが拙い句を一句。

「立山連峰空へ刻みし十一月　和子」

会場の音楽隊、オリンピックさながらの聖火リレーの走者、そして行き届いた運営もまた素晴らしかった。多彩なアトラクションを見物しながら各選手達はお弁当を開ける。中心に鱒寿司、まわりには名物の蛍烏賊、白海老のかき揚げ、鰤の刺身が盛られ、上に掛けられた紙絵も素晴らしく、富山の美食弁当を満喫した。

翌日、黒部市宇奈月国際会館「セレネ」にて俳句交流大会が開かれた。吟行地は宇奈月温泉街・宇奈月ダム・尾の沼体験交流施設とちの湯・松桜閣とすべて現地の方が案内してくださったので大変助かり、少々時間はないものの皆作句に励んでいたようだ。

最後に静岡事務局・富山事務局の方々の対応に心からお礼を申し上げ、ペンを閉じます。

試合会場前で記念撮影。